



事業計画書

令和2年度

社会福祉法人共生会 松風荘

内容

I. 理念と方針	2
社会福祉法人共生会 経営理念	2
社会福祉法人共生会 経営方針	2
松風荘の基本理念	3
松風荘の養護方針	3
今年度の重点方針	4
「養育の質を高めよう」	4
「将来の展望を考えよう」	4
II. 施設の概要	5
III. 権利擁護	3
IV. 中期計画	3
V. 運営管理に関する事業計画	4
VI. 家庭支援事業計画	7
VII. 生活支援事業計画	8
本園事業計画	8
第一分園事業計画（パインツリー）	10
第二分園事業計画（ツインリーフ松風）	13
第三分園事業計画（もちのき）	15
VIII. 自立支援強化事業 事業計画書	17
IX. 食生活支援事業計画	19
X. 心理支援事業計画	23
XI. 委員会活動事業計画	24
防災安全委員会	24
マニュアル委員会	25
性教育委員会	26

I. 理念と方針

社会福祉法人共生会 経営理念

当法人は設立の精神である「共生」の精神に則り、利用者と事業者が共に手を携えて支え合い、自立に向けて支援することを基本理念としています。

1 利用者の尊重

共生の精神に則り、利用者の意思や人格を尊重し、利用者の立場に立ったサービスを提供します。

2 自立支援

利用者の持つ能力に応じて、自立した日常生活を営むことができるよう支援します。

3 安心・安全な生活

利用者や家族が安心・安全な生活ができるよう支援します。

4 地域との連携

地域住民又はその自発的な活動との連携及び協力を行う等の地域との交流につとめ、地域の福祉サービスの拠点を目指します。

社会福祉法人共生会 経営方針

利用者の権利擁護を中核に据えれば、経営のコンプライアンス・透明性・説明責任・公開性の確立は法人経営にとって不可欠である。そのために公認会計士による外部監査の実施、顧問弁護士による法の遵守の徹底、顧問経営コンサルタントによる経営の適正化を図ってきています。

1 健全経営の実現

自己収入で支出し賄い得るよう工夫し、無駄をなくし、効率化に努め健全な経営を確立します。

2 地域との連携

地域との交流の推進を図り、安心と信頼で結ばれる社会福祉事業の運営をします。

3 サービスの質の向上

利用者本位のサービスを実現するため、業務の標準化を図るとともに、それを最低基準として品質向上の鍵を握る職員のレベルアップを、業務を通して実現します。

4 第三者サービス評価の受審

第三者サービス評価機関によるサービス評価を積極的に受審します。

5 苦情解決制度の実施

苦情解決のしくみとして第三者委員を選定し、サービスのチェックを実施します。

6 情報の公開

情報公開は説明責任として、個人情報保護法の範囲内において、インターネット上、文書による情報を提供します。

7 責任と権限の明確化

組織として事業活動を実践しているという原点に立ちかえり、職員各自の組織上の役割、権限、責任を明確にして、組織一体となって業務遂行にあたります。

8 働きやすい環境

誇りをもって働きやすい法令遵守の職場環境づくりに努めます。

松風荘の基本理念

児童福祉法、児童憲章及び児童の権利に関する条約の精神に則り、児童の基本的人権を擁護し、福祉の増進をはかり、心身共に健康な人間の育成をめざして、自立のための支援を行います。

創始者積惟勝先生の施設養護への思いである「一人はみんなのために、みんなは一人のために」を一人ひとりの社会性や人間関係を豊かにするとともに、個別的な関わりを大切にしながら家庭的な施設づくり目指し、年齢に応じた配慮、細やかな配慮、思いやり等必要な事を伝えていく事を基本理念としています。

松風荘の養護方針

- ① 子どもたちの最善の利益を守り、発達成長を支援します。
- ② 愛情に満ちた環境の中で、安全で安心した生活を用意し、子どもたちの生活意欲を育てます。
- ③ お互いに認め、大切にしよう仲間作りをしながら、責任感・思いやり・助け合いの心を育てます。
- ④ 子どもたちの学習を支援します。中学生には高校進学、高校生には主体的な進路選択ができるよう援助します。
- ⑤ 社会的な人間関係の自立、社会生活の自立や卒園後の自活生活を支援します。
- ⑥ 体罰等の人権侵害行為を否定し、受容的なかわりを心がけ、心の痛みを受け止めた治療的な養護をめざします。
- ⑦ 学習指導や行事とともに参加してくれるボランティアやフレンドホーム（短期里親）は子どもたちの大きな支えとなっています。
- ⑧ 親との関係を密にし、ともに子育てをすることを大切にしながら、家庭復帰をめざします。
- ⑨ 児童相談所・学校・地域・関係諸機関との連携をとりながら子育てをします。

- ⑩ 「子どもの権利ノートを活用」「第三者による施設サービス評価の実施」「苦情解決制度の推進」などを通して児童の権利擁護の充実を図ります。

今年度の重点方針

「養育の質を高めよう」

- 人材育成に力を入れます。
- OJT の充実。新任職員に対する教育の強化。具体的な支援方針の学びを行います。
- GH 職員の支援強化。ホームの4人態勢を実施します。
- OFF-JT の積極的参加を促します。（年間、一人一研修の徹底）
- 講師を招き、階層別に園内研修を実施します。（コーチング技術を学びます）
- 家庭的養育の見直しを行います。
- 自立に必要な知識経験を生活場面での取得が出来るように援助します。
（ごみの分別出し方、洗濯、簡単な調理、挨拶等）

「将来の展望を考えよう」

- 第一分園については、第2分園隣地の土地の取得が出来た。現在借りている物件が、2年後に契約期限が切れるので、2年後の移転に備え、法人所有の具体的な建物を新築する計画を立てる。
- 本園の老朽化に伴う建て替えについて、数年間の建て替え計画を推進し、今年度中におおまかな計画を立てていく。（設計事務所へ依頼中）

II. 施設の概要

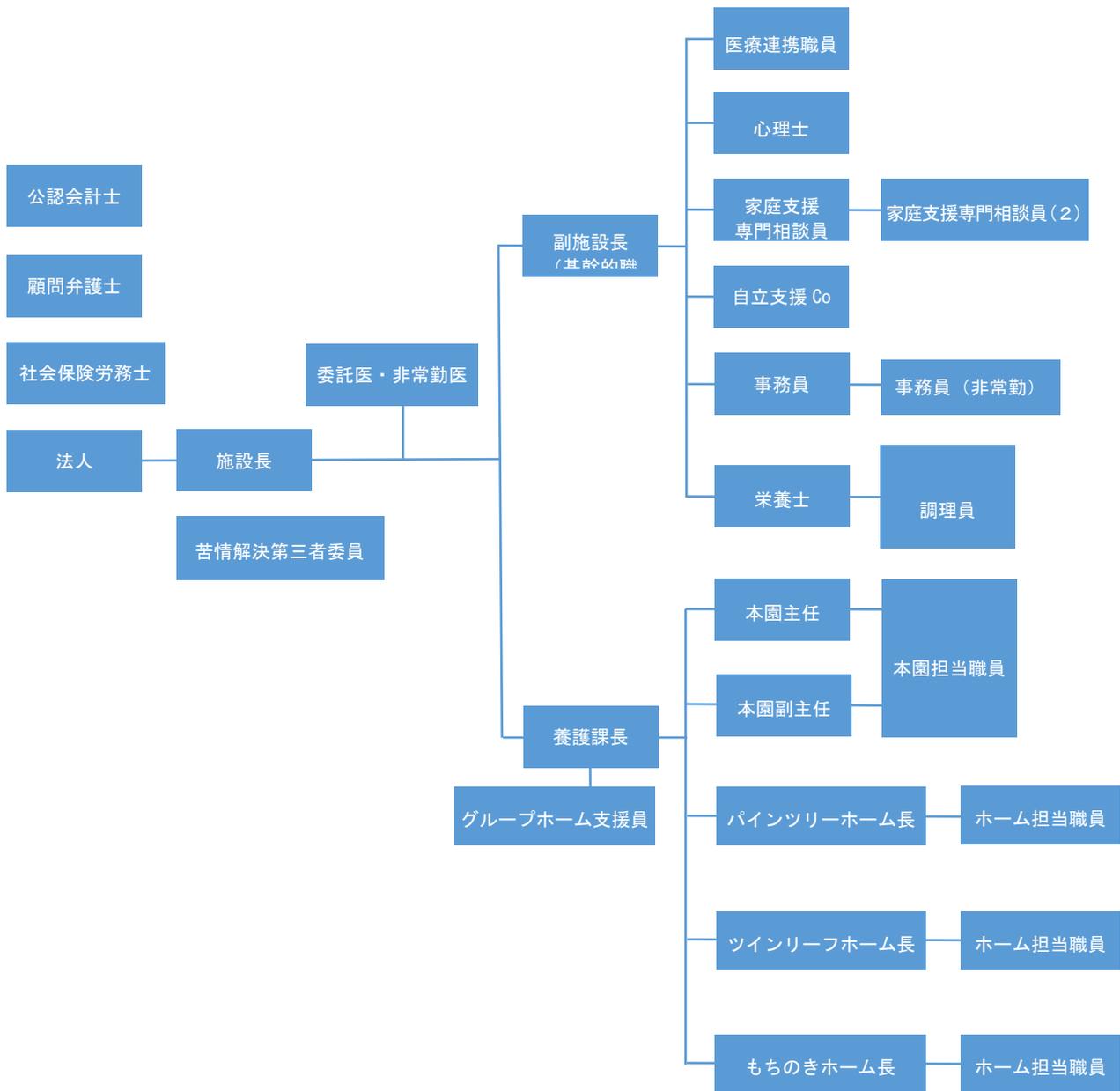
1. 施設の規模

	児童定員	職員	敷地面積	建物面積他
施設全体	30名	36名（嘱託医舎）		
本園	12名	21名 (内ケアワーカー8名)	462.8 m ² (約 140 坪)	340.423 m ² (約 104 坪) 鉄筋コンクリート 2 階建
第一分園	6名	4名+支援員 (兼)+調理他	約 660 m ² (約 200 坪)	183.41 m ² (55.5 坪) 木造 2 階建 5 LDK
第二分園	6名	4名+支援員 (兼)+調理他	251.43 m ² (約 76 坪)	211.57 m ² (64 坪) 木造 2 階建 7 LDK
第三分園	6名	4名+支援員 (兼)+調理他	193.82 m ² (約 59 坪)	144.91 m ² (59 坪) 木造 2 階建 5 LDK

2. 職員構成

施設長	1	副施設長 (基幹的職員)	1	養護課長 (FSW 兼務)	1	嘱託医	1
事務員	1	事務員 (非)	1	栄養士	1	調理員	2
調理員 (非)	4	心理士	1	保育士 指導員	15	医療連携職員 (非)	1
家庭支援専門相談員	2	個別対応職員	1	グループホーム支援員	1	自立支援員 自立支援 Co	2

3. 組織図



令和2年度（2020年度）事業計画

4. 業務分担表

	職種	職務内容
	統括施設長	○伊豆長岡学園と松風荘の運営管理を統括し、必要に応じて助言、及び指導を行う。
管理職	施設長	○事業全体の目標、計画、進捗管理、○予算、決算、財務、施設整備（会計責任者）、○組織、人事の活性化、改善、○行政機関、関係機関等に対して施設を代表、○苦情解決責任者、○防火管理者
	副施設長	○事業全体の目標、計画、進捗管理 ○組織、人事の活性化、改善、リーダー層の育成 ○児童支援に関するスーパーバイズ ○専門職のとりまとめ ○その他、施設長の補佐及び代理 ○職員採用に関する業務 ○職員会議、養護会議の司会進行
	養護課長	○事業全体の目標、計画を把握 ○児童支援に関するスーパーバイズ ○リーダー層の育成 ○子ども手当 ○苦情解決担当（苦情受付者） ○その他、施設長が必要と認めたもの
専門職	ファミリーソーシャルワーカー（FSW）	○自立支援計画作成への助言および進捗管理○対象児童の早期家庭復帰のための保護者等に対する相談援助業務、○退所後の児童に対する継続的な相談援助、○里親委託の推進のための業務、○児童相談所等関係機関との連絡・調整、○ケースの進捗管理 ○外部の会議への参加
	ファミリーソーシャルワーカー（FSW）	○自立支援計画作成への助言および進捗管理○対象児童の早期家庭復帰のための保護者等に対する相談援助業務、○退所後の児童に対する継続的な相談援助、○里親委託の推進のための業務、○児童相談所等関係機関との連絡・調整、○ケースの進捗管理 ○外部の会議への参加
	自立支援コーディネーター	○自立支援計画作成への助言および進捗管理 ○学習・進学支援、就労支援等に関する社会資源との連携 ○3.高校中退者など個別対応が必要な児童に対する支援 ○施設退所者に対する継続的な状況把握および自立支援のマネジメント○外部の会議への参加 ○第三者評価の実施に関する業務（業者選定は施設長が行う） ○その他施設長が必要と認めた業務
本園	本園主任	○本園の生活担当職員の業務（日常生活支援に係る業務）や労務（勤務表作成等）の管理 ○設備等の保守、管理 ○本園の行事計画の立案実行を主導 ○実習生の受入に関する業務 ○新任、若手職員の育成に関する業務 ○地域との連携に関する業務 ○本園主任の補佐
	本園副主任	○本園の生活担当職員の業務（日常生活支援に係る業務）や労務（勤務表作成等）の管理 ○設備等の保守、管理 ○本園の行事計画の立案実行を主導 ○実習生の受入に関する業務 ○新任、若手職員の育成に関する業務 ○地域との連携に関する業務 ○本園主任の補佐
	本園担当職員	○自立支援計画書の策定と実施（自立支援計画策定マニュアルに沿って） ○生活支援（食事の介助、見守り、マナー指導、季節や場に応じた服装調整、居室や建物の環境整備等） ○学習支援（宿題の確認に加え、各人に合った学習環境を提供） ○余暇活動（遊びの提供、公園への引率等） ○保健衛生指導（うがいや手洗い、検便の声掛け等） ○進路指導（学校選択に必要な情報提供や学校見学の引率等） ○健康管理 ○グループワーク（行事、子どもの自治的活動） ○学校との連絡調整、PTA活動への参加 ○地域活動への参加（指導員、町内一斉清掃等） ○保護者への連絡（家庭支援専門相談員の指示を受けて連絡する事がある） ○児童居室及び物品の管理（文房具や衣料等） ○文書記録（育成記録、養護日誌等）の整備 ○防火管理、災害対策の実施（防災計画策定、防災訓練の計画と実施） ○アフターケア
グループホーム	ホーム長	○ホームを代表し、日常のホーム運営の責任者 ○ホーム職員の労務管理（勤務表作成等） ○ホーム児童に対する日常生活支援を主導 ○ホーム行事の企画と実行の責任者 ○設備、備品の保守管理 ○ホームの事業計画の進捗管理 ○ホーム職員の指導育成 ○学校、地域との連携 に関する業務を主導 ○その他施設長が必要と認めた業務
	グループホーム担当職員	○自立支援計画書の策定と実施（自立支援計画策定マニュアルに沿って） ○生活支援（食事の介助、見守り、マナー指導、季節や場に応じた服装調整、居室や建物の環境整備等） ○学習支援（宿題の確認に加え、各人に合った学習環境を提供） ○余暇活動（遊びの提供、公園への引率等） ○保健衛生指導（うがいや手洗い、検便の声掛け等） ○進路指導（学校選択に必要な情報提供や学校見学の引率等） ○健康管理 ○グループワーク（行事、子どもの自治的活動） ○学校との連絡調整、PTA活動への参加 ○地域活動への参加（指導員、町内一斉清掃等） ○保護者への連絡（家庭支援専門相談員の指示を受けて連絡する事がある） ○児童居室及び物品の管理（文房具や衣料等） ○文書記録（育成記録、養護日誌等）の整備 ○防火管理、災害対策の実施（防災計画策定、防災訓練の計画と実施） ○アフターケア
	グループホーム支援員	○グループホーム入所児童及びファミリーホーム委託児童からの苦情解決及び人権擁護 ○グループホーム等専任職員からの相談対応及び助言・指導 ○グループホーム入所児童及びファミリーホーム委託児童の自立支援計画作成等に係る支援・助言 ○各種情報収集・提供 ○緊急時対応・支援 ○その他グループホーム等の運営に必要な支援
食生活	栄養士	○献立表の作成 ○嗜好調査の実施 ○食材の発注に係る業務 ○給食調理 ○子どもへの食育指導 ○実習生への指導 ○食品倉庫、調理室の管理 ○その他施設長が必要と認めた業務
	調理員	○給食調理 ○おやつ作り ○食品倉庫、調理室の管理 ○その他施設長が必要と認めた業務
専門職	治療指導員（心理士）	○ケースカンファレンスへの参加 ○子どもの面接、心理ケア ○職員に対してケア技術に関する指導助言 ○生活場面での子どもの状況観察及び職員へのコンサルテーション ○心理治療プログラムの立案、実施 ○治療的環境づくり ○その他施設長が必要と認めた業務
	心理士	○ケースカンファレンスへの参加 ○子どもの心理面接、心理治療 ○その他施設長が必要と認めた業務
事務	事務員	○出納責任者 ○小口現金取扱者 ○経理、財務業務 ○庶務業務 ○その他施設長が必要と認めた業務 ○職員健康診断
		○小口現金取扱者 ○その他施設長が必要と認めた業務
	嘱託医	○医師としての業務 ○かかりつけ医
	嘱託医	○医師としての業務 ○専門機能向上に係る業務

5. 会議

会議を施設運営の中心に据え、会議ごとの目的達成に向けて参加する職員が協力する。

会議の種類と目的等一覧

名称	目的	参加者	開催頻度	備考
職員会議	松風荘に関するあらゆる事項を議題とし、意志決定と承認を目的とする	職員全員 (パート従業員、嘱託医師を除く)	月一回	献立会議を含む
経営会議	施設運営に係る重要案件（予算、人事等）や将来構想を検討協議する	施設長 副施設長 養護課長	月二回	
運営会議	施設運営に係る案件について少人数で検討協議する。職員会議前の検討事項中心	施設長・副施設長 養護課長・専門職・主任 GH 統括	月一回	
養護会議	児童の支援に係る事項や全体行事計画を検討協議する	管理職、専門職、生活支援担当職員	月一回	ケース会議を含む
支援会議	養護会議前に子どもに係る案件について、検討協議する	管理職、ホーム長、主任(副主任)、専門職	月二回	グループごとに開催
生活支援会議	児童に関する情報共有や生活上の諸課題についての検討を目的とする。	生活担当職員、専門職	月二～三回	
食生活会議	食生活を担ううえで必要な情報を共有し、検討課題について協議する。	栄養士、調理員、本園主任(または副主任)、管理職	月一回	

III. 権利擁護

権利擁護という視点で見たとき、児童養護施設は入所している児童とその家族にとって最後の砦ともいわれる。子どもの貧困や児童虐待、ドメスティックバイオレンスなど、入所以前の暮らしの中ではその人権が著しく蹂躪されていたケースが多い。児童養護施設が権利擁護を基盤とした支援を展開する事が求められているのは、こうした背景にもよる。

職員の人権意識を高める取組

- ①4月の職員会議では、東京都社会福祉協議会児童部会が作成した倫理綱領を読み合わせる。
- ②全国社会福祉協議会が作成した「児童養護施設のための人権擁護チェックリスト」を実施。

権利擁護を進めるための仕組み

入所児童やその家族からの苦情に対応する為に、苦情解決のしくみ実施要項を定める。第三者苦情解決員の方には、入所児童と一緒に食事をとってもらえる機会を設けるなどして、子どもたちの生活の様子をみていただき、担当職員や施設長との懇談の時間を設ける。

◆苦情解決責任者

施設長 村松信知

◆苦情解決のための第三者委員

真野照英氏（司法書士） 西山知津子氏（児童委員） 杉山 互氏（地域相談員）

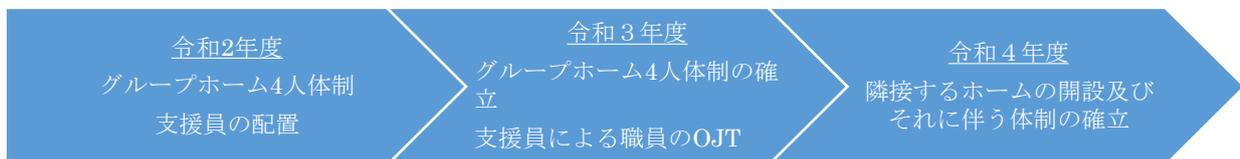
◆苦情受付委員

養護課長 加藤美奈

IV. 中期計画

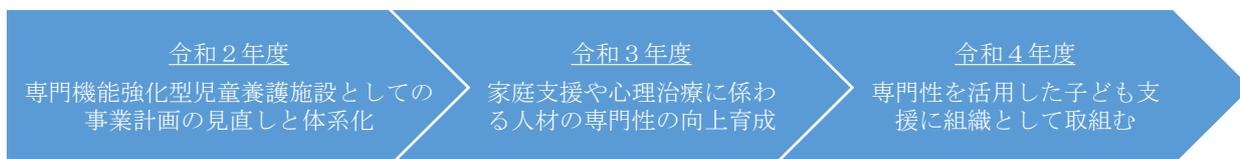
1. 人材育成

地域分散が進んだ施設では、各グループの責任者（チームリーダー）養成と職員のスキルアップが必要となる。小規模化した養育単位での子どもの育ちを理解し、チームアプローチを実践できるような人材の育成に努める。そのためには、職員個々に求める業務や必要なスキルを、OJT、OFF-JTを実施し、育成に努めると同時に養育の質の向上を目指す。又、育成にあたる職員の研修を実施する。



2. 専門機能型児童養護施設としての組織力の向上

家族再統合や心理治療など、専門性を高める手段として外部講師を招き、ケースカンファレンスを年4回実施し、取り組みを活性化させ、検討力を養う。



V. 運営管理に関する事業計画

① 事業計画と予算の運用

職員による事業総括をもとに、新たな事業計画をたて、計画に見合った予算を作成し運用する。

② 危機管理体制の整備

ヒヤリハットの収集と会議での報告を通して危機管理意識の向上に取り組み、事故予防対策を施設のシステムとして構築する

③ 施設サービス評価事業の実施

第三者機関によるサービス評価を受審し子どもの権利擁護と生活の質の向上を図る。また、評価結果の公表により、施設運営とサービス提供の透明性の確保を担保する。

④ 苦情解決のための仕組みを活用

苦情は、サービス向上のスタートと捉え、子どもの権利擁護とサービスの向上を目的として実施する。入所児童とその家族からの苦情を受け付け、解決に向けて第三者委員会を常設する。第三者委員には、子どもとの夕食会を通して話しやすい関係性を作ってもらおう。

○第三者委員の氏名等：・真野照英氏（司法書士） ・西山千津子氏（児童委員）
・杉山 互氏（地域相談員）

○第三者委員との会食：5月から6月にかけて本園にて実施
10月から11月にかけてグループホームにて実施

⑤ 自立支援計画の策定と評価

児童相談所との機関連携や施設内での多職種連携を通して丁寧にアセスメントし、支援計画を策定する。また、子どもとその家族の状況は、成長や社会的、医療的要因によって刻々と変化する事から、常に見直しができるものとし、半期に一度（10月に）は、全ケースを対象に支援計画の見直しを行う事とする。そして、3月には年度末評価を実施する。

○策定に向けた手順



⑥ 職員健康管理の推進

健康診断を年2回実施。健康の自己管理を目的とした衛生推進会議に講師を招き年1回開催する。

○令和2年度のテーマは、「職員の体調管理及び危機管理」とする。

⑦ 互助会により、新年会、送別会、歓迎会を実施するなどの福利厚生を図る。また、インフルエンザ予防接種に係る費用は施設負担とする。

⑧ ボランティア受け入れ

令和2年度（2020年度）事業計画

入所児童の生活（遊びや学習）の充実や地域との交流促進を目的にボランティアを受け入れる。ボランティア受け入れ実施要項を準備し、これに沿って受け入れを行う。

○ボランティア受け入れ状況（予定）

	人数	主な活動内容	活動場所
アロマボランティア	1人	アロマセラピー	本園、分園
学習支援	2人	個別学習指導	本園、分園
余暇支援 他	3人	生け花、散髪、遊び	本園、分園

⑨ 実習生受け入れ

保育士資格や社会福祉士受験資格の取得を目指す学生を実習生として受け入れる。受け入れには養成校との契約が必要となる。養成校の教員との連携のもとに指導し、社会的養護への理解を深める。又、実習生として優秀と認められ、児童養護施設で働く意思のある場合や資質が認められる場合においては、ボランティアやアルバイトなどとして継続して関わりを持ってもらえるように働きかける。

○令和2年受け入れ予定

資格種類	受入校数	受入人数
保育士資格	14校	24名
社会福祉士受験資格	3校	3名

⑩ 職員研修・学習会の充実

職種ごとの研修に加え、児童養護や児童虐待といった実践的テーマはもちろんのこと、子どもの貧困や子育て支援といったテーマも含め、施設全体の養護内容を豊かにするために園内外の研修や学習会に職員を派遣する。研修担当者が派遣の案を作り、施設長がこれを了承する。または、職員自らが希望する研修への派遣を申し出ることできる。派遣には施設長の了解が必要。

外部研修派遣計画

月	研修名	主催者	参加者
4月	法人新任研修	社会福祉法人共生会	新任職員・施設長
5月	法人研修	社会福祉法人共生会	中堅職員・施設長
6月	中堅職員研修	東京都社会福祉協議会児童部会	中堅職員
	子どもの虐待防止セミナー	子どもの虐待防止センター	希望職員
7月	関東ブロック施設長研究協議会	関東ブロック児童養護施設協議会	施設長
8月			
9月	新任研修（9～11月）	東京都社会福祉協議会児童部会	新任職員

令和2年度（2020年度）事業計画

	児童養護施設指導者研修会 子どもの虐待防止セミナー	子どもの虹情報研修センター 子どもの虐待防止センター	中堅職員
10月	関東ブロック児童養護施設職員 研修会	関東ブロック児童養護施設協議会	中堅職員
11月	全国児童養護施設長研究協議会	全国児童養護施設協議会	施設長
12月			
1月	児童福祉施設指導者合同研修 スーパービジョン研修 性教育研究会学術大会	子どもの虹情報研修センター 全国社会福祉協議会 性教育研究会	家庭支援専門相談員 中堅職員 性教育委員
2月	給食現任訓練 新任職員フォローアップ研修 家庭支援専門相談員研修 スーパービジョン研修Ⅰ	東京都社会福祉協議会児童部会 東京都社会福祉協議会児童部会 全国社会福祉協議会 東京都社会福祉協議会	栄養士 新任職員 家庭支援専門相談員 中堅職員
3月			

VI. 家庭支援事業計画

基本方針

家庭支援専門相談員の配置が2名となり、3年目になる。

ケースに応じて、家族調整を進めていくことは大切であり、分担をしながらの対応ができると思われる。（本園は職：布施、3つのホームは職：加藤で分業）

専門職としてのファミリーソーシャルワーカーの位置づけで、児童相談所、関係機関と連携しながら児童と家族全体の支援を行ない、親子関係の再構築及び家族再統合の促進を図り、子どもとその保護者との家庭環境においては慎重な対応が必要であるので留意しながらの対応を図っていききたい。

1 家族再統合の為の支援（養育相談、養育支援、家族支援、家庭訪問 他）

保護者に対して、現状報告、今後の方向性や目標を共有し、保護者に働きかけを行なっていく。また、保護者の相談を聞くことで、安心感を与えると同時に信頼関係を築いていけるような支援をとっていききたい。児童相談所と連携をとり家庭訪問も実施していききたい。親の状況把握は、丁寧に対応をし、児童相談所以外の関係機関とも連携し進めていききたい。

長期休みの面会、帰省の実施も行ない、親子交流を図っていききたい。

ケースに応じては、関係者会議を行ない、早め早めの対応に心がけていききたい。

家庭引き取りについては、入所理由と現状の把握（できていること、できていないこと（課題））をし、一連の振り返りを親子共々し、また親への支援体制、室内面会の開始、面会外出の開始、帰省（短期、長期）、家庭復帰という流れで進行できるような体制で行なっていききたい。

2 児童相談所関係機関との連携

福祉司との連携は定期的にとり、子どもの様子も定期的に伝えていくのと同時に親の情報も施設から連絡が出来ないケースもあるので、児童相談所に状況把握をお願いし、連絡してもらうパターンの定着をしたい。ただ、児童相談所の福祉司と連絡が取れないことが多々あるため、伝言し、見解の違いがないような連携に強化をしていききたい。

3 その他

・職員会議など、子どもと親の情報共有を図り、周知をしていく。

担当職員と情報共有を図り、新人職員についてはアドバイスしながら進行していききたい。

・家庭支援の書類関係については、方針、アセスメントシート、家庭復帰支援プログラム、業務日誌などがあり、丁寧に作成していく。

・親子関係の入所時マニュアルを作成する。

・家庭支援、自立支援コーディネーター、子どもの担当職員との連携、役割分担を明確にして周知していく。

VII. 生活支援事業計画

本園事業計画

<運営方針>

家庭的養護を推進し、被虐待児童や処遇困難児童に対し治療的養護を目指す。養護ニーズに合わせ、入所依頼については柔軟に対応していく。家庭的な雰囲気は残しながらも集団生活であることも踏まえ、お互いを尊重し、助け合える仲間づくりを作る。特に安心・安全な生活環境を提供するため、虐めや暴力のないように支援していく。いつでも来客対応が出来るよう、気遣い、心配りを怠らずに清潔感を保つ。児童の希望に沿いながら本園ならではの多種多様な行事運営をおこない、社会性や集団性、経験、体験を積みながら集団形成、共有した思い出作りをおこなう。

<支援方針>

①児童対応

発達に偏りがある児童や複雑多様化した児童の問題に対し生活支援部を中心に専門職との連携を図り治療的な支援を目指す。

幼児には愛情を持って接し、愛着関係の構築に努めながら安定した生活を送れるようにする。小学生児童には集団生活を通し、お互いに思いやる気持ちを育めるように支援する。高齢児については自立が出来るよう自己決定、自己覚知を促すよう個別対応を中心に丁寧な支援を行えるようにする。

生活支援員のコミュニケーションを活発にし、統一した支援方針の作成を行い、処遇スキルの向上を目指す。報告・連絡・相談を徹底し、一人で処遇をするのではなく、チームで児童の育成に努める意識を高める。高齢児を中心にお互いに育みあう雰囲気を大切にしながら集団形成を行う。学期初めと終わりに家族会議を実施していく。行事の企画・運営を主体となり行う。

基本的生活習慣の確立と、集団生活であることを念頭に置きながら自立を助ける決まり事を児童と共に見直しを行いながら、現状に合わせた生活の決まりを設定する。

児童間の関係については虐めや暴力がない安心・安全な生活を保障する為、児童の関係性を常に把握する。児童の居室は他児の出入りは禁止として、プライバシーと安全な空間づくりをする。生活支援会議で定期的に相関図を作成し児童の関係性を共有する。また、児童がトラブルになりそうな時間帯や場所を把握する。

②学習対応

個々の能力に合わせた学習支援を行う。小学生は宿題を丁寧に行い、学力の定着に努める。学校の支度を子どもと共に確実にいきなり習慣化できるようにする。中学生については毎日1時間、学習する時間を設定し塾も利用しながら基礎学力を身につける。毎日の宿題や未提出物がないように確認しながら支援する。受験生には自立するときの生活や高卒後の進路もイメージさせながら早期決定を行えるよう学力の向上を促す。日々の宿題とともに基礎学力の向上と定着を家庭学習中心に行う。必要に合わせて学習ボランティアの活用も検討し、学習環境の整備を行う。

③行事

児童の希望を聞き取りながら行事を通し思いやりのある集団作りを行う。企画行事を中心に意図的な個別対応や社会性を身につける。誕生日会については児童の生まれた日に実施する。

※行事計画

行事名	目的
GW 行事	年度当初の集団形成の場として行事を行う。
夏キャンプ	キャンプを通し体験、経験を積む行事を行う。
希望・企画行事	児童の希望を聞き取りながら、行事を行う。意図的な体験や経験ができる行事を行う。
冬休み宿泊行事	帰省のない児童を中心に宿泊行事を行う。
春行事	冬・春ならではの行事を実施する。

④入所について

事前面会から入所当日まで同じ職員が丁寧に対応し不安感の軽減をする。入所1カ月は日記を職員と行い、集団になじめるように配慮した支援を行う。

<業務方針>

生活支援部会議は円滑な司会進行を行い全体的に活発な意見が出せるよう配慮しながら効率の良い会議運営を行う。共通の認識を持ち、統一した処遇を決定し遂行できるようにする。生活支援部会議を行う際には、児童の様子を担当職員から報告し情報の共有を行う。

各副業務は在庫切れがないように、受け払い簿を付けながら在庫管理を行う。衣料品は季節に合わせた衣料品を適切に選択することを心掛ける。また、日用品も含め物を大切にすることを教えていく。

予防接種については一覧を用いて接種状況を把握しながら漏れのないように実施する。

1回/月の火災避難訓練を実施する。地震避難訓練は2回/年 夜間想定避難訓練1回/年を実施する。新規入所時や部屋替えの際に防災袋の点検を実施する。

<職員間連携>

コミュニケーションを大切にしながら円滑なチームワークを形成する。指示系統を確立し、いつでも相談し解決できる体制を整える。統一した支援を行うことを念頭に個々の処遇向上を目指すためにも信頼し尊重しあえるチーム作りを行う。

新規採用職員にはチューター制度を取り入れながら業務の定着、処遇スキルの向上に努め謙虚な姿勢を持ち自己研鑽に努め、責任感を持った人材育成を行う。

<他部署との連携について>

他部署との連携を深め、食生活会議などの他部会議に参加する。家庭支援専門相談員・自立支援コーディネーター・心理との情報交換・相談も積極的に行い、本園全体で児童を育てる意識を大事にする。

第一分園事業計画（パインツリー）

<運営方針>

地域社会の中で家庭的擁護を実践すると共に、児童の年齢に応じた健全な発育を促すために児童との対話を行っていきながら児童の最善の利益と権利擁護を図る。自発的な行動を促しながら社会的な自立、生活習慣の確立を目指す。共同生活であることを念頭に他人に迷惑をかけない生活、また協力して他人を助ける気持ちを育てていく。小学生は集団生活の大切さを伝えていき、中高生には自立を見据えた支援を行っていく事、職員は話し合いを重視し、自分が得た気づきを共通認識にしていく事で、児童が思いやりの心を育てられるよう支援する。南本郷町での生活が4年目となるため、積極的に地域参画を行いさらなる地域の理解、連携を深めていく。

<支援方針>

①児童対応

児童にはお互いを尊重し、穏やかな生活を送らせていく。生活習慣を整わせ自立に向けての礎を築く。生活に必要なルールの見直しを図りながら他者の迷惑を考え、利己的な考えに陥らないような人格形成を育てていく。被虐待児が多いため、心理的サポートなど、児童の自主性を尊重し多職種との連携を踏まえた支援を実践していく。職員体制が今年度から4人体制になる為、複数対応が可能になる。個別対応を重視しながら児童の能力、特性に合わせた支援を行う。そのためにはチームワークや職員間の連携を強化し、児童職員とも相互理解のもと支援を行っていく。

混合ホームではあるが女兒の割合が多く、被虐待児の割合も多いことから児童相関図の把握や職員間での共有を怠らず、いじめや陰険な意地悪がないように見守っていききたい。小学生も高学年となるため、性差を意識しながら性的問題に発展しないよう距離感や関係性には注視していききたい。お互いに思いやりを持ちながら協力し、雰囲気の良い児童間の関係性を築いていく。調理場面も身近になるため、食生活への興味を増やしながらか育を行う。

②家庭との交流

家庭復帰が見込まれる児童には段階的な家庭復帰プログラムを家庭支援専門相談員と連携しながら行っていく。高校受験の児童に対しては家庭学習を中心に学習環境を整え、希望高校へ進学できるようにする。保護者がいる児童には定期的な連絡をしながら児童の状況を伝え、定期的な面会、帰省、交流を行う。児童相談所との連携もとりながら関係者会議、保護者の状況の把握など情報の共有化を図る。

③学習対応

小学生の学習は宿題を中心に丁寧に行うよう支援していく。長期休みには苦手分野や基礎学力を向上するため宿題を早期に終え、ドリルや教材を活用していききたい。中学生は、1時間学習を定着化し、日々の生活の中で勉強する意識を付けさせる。必要であれば通塾を視野に入れ、基礎学力の向上を図る。学校の未提出課題についても学校と連絡を取り合い、未提出がないように支援をしていく。定期テスト前は学習に集中して取り組めるよう他児にも協力を仰ぎながら環境整備を進めていく。高校生は自主性を尊重しながら定期テスト期間の把握を行い、学習するよう随時促していく。各学校とは連携を密にとり、学校生活の様子や現れなどを共有していききたい。高校3年生児童に対しては、早急に進路決定が出来るよう、話し合いを重ねて児童の意向を確認し、希望する進路へ進めるよう支援する。

④行事

児童の希望に沿いながら体験や経験を積ませる行事を企画し、思い出に残る楽しい行事を行っていく。休日や長期休みにも地域のイベントなどの情報を集め参加を促していきたい。高齢児童には社会性や自立心を養うためにも高齢時合宿やインターンシップなどの活用も行っていく。

※行事計画

行事名	目的
GW行事	初めての集団行事として仲間づくり、協力体制を作る。
夏行事	長期休みに普段できない宿泊行事を行い、みんなで思い出を作る。
冬行事	児童の希望に合わせ日帰りか宿泊行事を行い、季節感ある行事を行う。
春行事	体験、経験を積ませるため、楽しい思い出をみんなで年度末に作る。

<業務方針>

調理に触れる機会を増やし、食に対する興味関心を広げていく。買い物から一緒に行くことで食材や食事に関する話題を増やし食育を行う。平日は調理補助職員がいることで学習支援にも丁寧に行いながら、栄養のある温かい食事の提供を行う。食事マナーも身に着けながら楽しく美味しい食卓にすることを心掛ける。

児童の衛生面、特に身辺整理には留意し清潔感を持たせ、健康面でも自己管理が行える児童を育む。居室のみならず、共同スペースも清掃しながら環境整備を行っていく。感染症には気を付け、換気、除菌、手洗いうがいの励行など日ごろから衛生観念を身に着けさせる。受診に際しては薬の管理を行い、適切な投薬治療ができるよう心掛ける。

常日頃から防災意識を養い、月一回の火災避難訓練、地震や津波を想定した訓練も定期的に行う。災害時に備え、防災袋のチェックや防災設備、避難場所の確認なども児童とともに共有していく。地域の防災訓練にも参加していく。

日用品や医薬品などの在庫切れがないよう、適切に備品の管理を行う。被服も季節に合わせた着衣を心掛け、適切な被服購入を行っていく。靴などの個別用品については洗いなどの管理を行い、購入も一覧表を使いながら過不足なく行っていく。

業務は丁寧に行うことを基本としながら、ミスが起きた際にはホーム全体で問題改善に努める。事故防止に努めながら、環境整備を行い、安全安心した生活、清潔感あるホームにしていく。

<職員間連携>

ホーム内では毎日の引継ぎを丁寧に行うとともに、日ごろから児童の情報を共通認識とするために些細なことでもコミュニケーションをとりながらチームワークを高めていく。他職種との連携も大事にしながらか報告・連絡・相談を密に行う。特に一人で決めずに相談をしながら相互理解したうえで、決めていく。ホーム会議では児童の情報の確認と予定の把握に努めていきたい。また相談のできる場としてホーム職員以外の第三者の参加もお願いし、客観的な視点でのご意見も伺い、より良い支援につなげていきたい。各会議の決定事項の確認、報告も行いながら、効率的かつ、活発な会議運営を行っていく。

令和2年度（2020年度）事業計画

ホーム職員間だけでなく、多職種との連携を深め連絡・報告を密に行いたい。F S Wや自立支援コーディネータや栄養士とは児童の支援に直結する部分も多いため、意見交換、相談を多く取っていきたい。心理士とは客観的な視点でみてもらい、児童に対する見方、虐待への回復方法などの連携をとっていきたい。

<その他>

様々な経験や人とのつながりを大事にするうえでもボランティアの活用は児童の成長に幅を広げる。今年度も適切なボランティアを多く求めていきたい。現在お願いしているボランティアにはより長く継続できるようにボランティアとのコミュニケーションも多く取っていく。実習生には小規模化、家庭的養護の実践も踏まえながら次世代の職員育成となるよう受け入れをしていく。

子ども会、生徒会の活動や町内祭りなど積極的に参加し、引き続き理解と支援をいただけるような関係性を継続していきたい。南本郷町での生活が4年目であるためパインツリー中心に町内会と関わりながら地域の一員、町内に必要とされるホームの運営を行っていく。

第二分園事業計画（ツインリーフ松風）

<運営方針>

地域社会の中で家庭的な養護を実施し、社会性や豊かな人間性を育む。丁寧な関わりを通して、年齢に応じた細やかな配慮、思いやりを持てる育成をする。

社会的自立に向けた支援を行う。自立支援を行う中で、児童が自己選択・自己判断・自己決定が出来る力を育てる。

<支援方針>

①児童対応

家庭的な生活を通し、職員との信頼関係を基に協力して生活を築きながら、発達段階に応じた生活体験を充実させる。一人ひとりの自立に向けて年齢相応に応じた自立への取組みを行い、社会人としてのマナーを身に付けさせる。また、地域での生活を通して社会性を身に付け、地域社会との繋がりを体験させる。児童間ではお互いに認め、思いやり助け合いの心を持った仲間作りを目指す。

②家庭との交流

家族再統合を目標に、家庭支援専門相談員を中心に家庭や児童相談所、関係機関との連携を行う。必要であれば関係者会議も実施する。進路選択を控える児童に関しても、情報共有を行いながら最善の進路に進められる様に支援をする。面会・帰省についても定期的に実施出来るよう調整を行う。

③学習対応

個々の能力に合わせた学習支援を行う。中学生については未提出課題がないように支援をしていく。毎日1時間学習する時間を設定し、塾や学習ボランティアを利用しながら基礎学力を身に付ける。長期休みの講習なども必要に合わせ行いたい。

高校生については、テスト期間を把握し、学習するよう随時促していく。社会経験を積むと共に、進路に向け必要な知識の習得を図る。

各学校とは連携を密にとり、学校生活の様子や現れなどを共有していきたい。

④行事

行事を通して思いやりの心と協調性を養い、社会性を育てる。児童が主体的に計画を立て、全体で楽しむ事が出来る行事を行なう。体験的な行事を行い、知的好奇心を高めていく。

児童の誕生日には全員でお祝いをし、仲間意識を育む。

※行事計画

行事名 目的

行事名	目的
GW行事	集団形成を目的とする。
夏行事	日常生活では体験出来ない事を、宿泊行事を通して体験する。協調性・思いやりの精神を育む。
冬行事	冬ならではの行事を通して、季節感を養う。また、チャレンジ精神を養う。
春行事	楽しい思い出作りと次年度の集団形成を目的とする。

令和2年度（2020年度）事業計画

<業務方針>

生活や行事を通して調理を進んで行う環境を作っていく。特に自立を控える児童には、買い物や調理実習を行い一人暮らしを見据えた支援を行う。

平日の夕食作りに調理の補助職員が入り充実した温かい食事の提供を行っていく。空いた時間で児童対応を丁寧に行う。食事マナーを身につけ好き嫌いをしない様に食育にも取り組んでいく。

衛生面では、年2回の健康診断を実施する。うち、一回は学校の健康診断とする。健康管理については、食事や睡眠、感染症についても意識を持たせる。児童の服薬に関しては医師の指示を守り、職員の引継ぎを宿直日誌で行い服薬漏れが無いように注意する。常備薬は定期的な在庫確認を行い、品質管理や在庫管理に努める。爪きりや散髪、居室の整理整頓等、生活の中で意識付けを行っていく。季節にあった衣料管理ができるように支援する。

防災の取組みとして、月に一回の火災避難訓練を実施する。また、年に2回は地震を想定した避難訓練も実施する。地域防災訓練に参加をし、災害時の避難方法を学ぶ。防災設備や備品の管理を実施する。

業務は丁寧に行うことを基本としながら、ミスが起きた際にはホーム全体で問題改善に努める。事故防止に努めながら、環境整備を行い、安心安全な生活、清潔感あるホームにしていく。

<職員間連携>

コミュニケーションを大切にしながら円滑なチームワークを形成する。自己判断せず、報告・連絡・相談を徹底し、統一した支援を行えるチームを目指す。

緊急事態が発生した際は、フローチャートを基に迅速な報告・連絡・相談を行い、応援体制を組み対応できるようにする。家庭支援専門相談員・自立支援コーディネーター・心理チームとの情報交換、相談も積極的に行い、子どもの支援にあたる。

<その他>

中学校の役員として、地区連絡委員と補導委員を依頼されている。積極的に地域活動に参加をし、子どもの支援に繋げて行きたい。児童養護施設の事をもっと理解してもらう為にも、職員一人ひとりが、発信者となって社会の理解を得られるようにしていく。

高校生には社会性や自立心を養うためにもインターンシップやアルバイトができるように支援していく。

事故防止の観点から、ヒヤリハットの検証を行い再発防止に高い意識を持って取り組む。

ボランティアについては、児童に合ったボランティアを選定し、積極的に受け入れをして行く。

第三分園事業計画（もちのき）

<運営方針>

男女縦割りのホーム地域社会の中で家庭的擁護を実践をする。児童の心身ともに健全な発育を促すために児童との対話を行っていきながら児童の最善の利益と権利擁護を図る。

児童の利益と権利擁護を図る。自発的な行動を促しながら社会的な自立、生活習慣の確立を目指す。一人ひとりを大切にしている事を再度考えていくと同時に、年齢に応じた配慮を怠らずに細かな配慮、思いやり、必要な事を伝えていき、養育の質を高めていく。

本体施設から近いことで応援体制を結びやすいので、本園との関係を密にしていく。

<支援方針>

①児童対応

児童にはお互いを尊重して、穏やかな生活を送らせていく。生活習慣を整わせ自立に向けての基礎を築く。挨拶の徹底を図り、生活に必要なルールの見直しを行いながら他者への迷惑を考え、利己的な考えに陥らないような人格形成を育てていく。

被虐待児が多いため、心理的サポートなど、児童の自主性を尊重し多職種との連携を踏まえた支援を実施していく。個別対応を重視しながら児童の能力、特性に合わせた支援を行う。チームワークや職員間の連携を強化し、児童、職員ともに相互理解のもと支援を行っていく。

低年齢児の集団であることから児童相関図の把握や職員間での共有を怠らずに、いじめや陰険な意地悪がないよう見守っていきながら、集団生活の大切さを伝え、中学生には自立を見据えた支援を行っていく。お互いに思いやりを持ちながら協力し、雰囲気の良い児童間の関係性を築いていく。他ホーム児童との関係も、異性関係に事故が起こらないように良い関係での交流を行う。調理も身近になるため、食生活への興味を増やしながらか食育を行う。

②家庭との交流

家庭交流が出来る児童には、家庭支援専門相談員と連携しながら交流を行っていく。保護者がいる児童には、定期的な連絡をしながら児童の状況を伝え、定期的な面会、帰省、交流を行う。児童相談所との連携もとりながら、保護者の状況の把握など情報の共有化を図る。

③学習対応

小学生の学習は宿題を中心に丁寧に行うよう支援していく。長期休みには苦手分野や基礎学力を向上する為、宿題を早期に終え、ドリルや教材を活用していきたい。また、必要な児童には学習ボランティアや公文を利用し、基礎学力の定着を図る。中学生は一時間学習する時間を設定し、塾や学習ボランティアを利用しながら基礎学力を身に付ける。また、未提出課題がないよう支援をしていく。定期テスト前は学習に集中して取り組めるよう他児にも協力を仰ぎながら環境整備を進めていく。

④行事

行事を通して思いやりの心と協調性を養い、社会性を育てる。児童の希望に沿いながら体験や経験を積ませる行事を企画し、思い出に残る楽しい行事を行っていく。休日や長期休みにも地域のイベントなどの情報を集め参加を促していきたい。

＊行事企画

行事名	目的
GW 行事	初めての集団行事として仲間作り、協力体制を作る。
夏行事	長期休みに普段できない宿泊行事を行い、皆で思い出を作る。
冬休み宿泊行事	児童の希望に合わせ日帰りか宿泊行事を行い、季節感ある行事を行う。
春行事	体験、経験を積ませるため、年度末に楽しい思い出を作る。

<業務方針>

調理に触れる機会を増やし、食に対する興味関心を広げていく。平日は、調理補助職員がいる事で学習支援も丁寧に行いながら、栄養のある温かい食事の提供を行う。食事マナーも身につけながら楽しく美味しい食卓にする事を心掛ける。

児童の衛生面、身辺整理には留意し清潔感を持たせ、健康面でも自己管理が行えるよう支援をする。居室のみならず、共同スペースも清掃しながら環境整備を行っていく。感染症には気を付け、換気、除菌、手洗いうがいなど日頃から衛生観念を身につけさせる。受診に際しては薬の管理を行い、適切な投薬治療ができるよう心掛ける。

防災の取り組みとして、月に一回の火災避難訓練を実施する。また、年に2回は地震を想定した避難訓練も実施をする。地域防災訓練に参加をし、災害時の避難方法を学ぶ。防災設備や備品の管理を実施する。

<職員間連携>

ホーム内では毎日の引継ぎを丁寧に行うとともに、日頃から児童の情報を共通認識するために些細なことでもコミュニケーションをとりながらチームワークを高めていく。他職種との連携も大事にしながら報告、連絡、相談を密に行う。特に一人で決めずに相談をしながら相互理解をしようとして決めていく。

ホーム会議では児童の情報の確認と予定の把握に努めていきたい。また、相談のできる場としてホーム職員以外の第三者の参加もお願いし、客観的な視点でのご意見も伺い、よりよい支援につなげていきたい。各会議の決定事項の確認、報告も行いながら、効果的かつ、活発な会議運営を行っていく。

ホーム職員間だけでなく、多職種との連携を深め、連絡・報告を行いたい。家庭支援専門相談員や自立支援コーディネーターや栄養士とは児童の支援に直結する部分も多いため、意見交換、相談を多く取っていきたい。心理士とは客観的な視点でみてもらい、児童に対する見方、心理的サポートなどの連携をとっていきたい。

<その他>

様々な経験や人とのつながりを大事にするうえでもボランティアの活用は児童の成長に幅を広げるため、適切なボランティアを多く求めていきたい。実習生については、実習期間一度だけの体験ではなく、ホーム中心の実習生の受け入れを図っていき、小規模化、家庭的養護の実践を踏まえながら次世代の職員の育成となるよう受け入れをしていく。

子ども会、生徒会の活動や町内祭りなど積極的に参加し、引き続きご理解とご支援を賜われるよう関係性を継続していく。

事故防止の観点から、ヒヤリハットの検証を行い再発防止に高い意識を持って取り組む。

VIII. 自立支援強化事業 事業計画書

1. 事業計画

(1) 事業の対象者数及び支援想定回数

- ①事業の対象者数（37人）※自立児童は退所後10年まで、家庭復帰は退所後5年までの者全員
- ②支援想定回数（222回）※事業の対象者数×6回

(2) 自立支援計画作成への助言、及び進行管理に関する取組（スケジュールの提示、記載内容に関する助言・確認等）

昨年度、検討を重ねた施設独自の自立支援計画書を使用する。児童とのアセスメントには「がんばろう計画書」「児童プロフィール」「今年はどんな年？」を使用しながら計画書を子どもにもわかるように作成を促していく。職員には作成フローチャートを確認してもらいながら検討会を経て提出までの流れを確認してもらいながら行っていく。中3や高3などの進路選択を控えた児童にはコーディネーターも担当者とともに計画に携わりより良い進路選択が自己決定できるよう支援していく。

(3) 児童の学習・進学支援、就労支援等に関する社会資源との連携、他施設や関係機関との連携

①学習支援・生活支援に関すること（ボランティアとの連携等）

中学生の定期テスト前には学習に集中して取り組めるような学習環境の整備を進めていく。塾の利用は定着しているため、家庭学習の充実のためにも学習ボランティアは継続してお願いしていく。進学を希望する高校生の塾の利用も検討を進めていく。今後は未就学児、小学生、高校生への学習支援の在り方もふくめ、基礎学力の向上、定着を目指していく。

生活の支援に関する余暇時間にも活け花やピアノなど趣味の幅が広がるようなボランティアの活用を行う。美容ボランティアやアロマボランティアなど長年、ボランティア活動を続けていただいている方たちも多くいる為、ボランティアの懇談会等も検討し日ごろの感謝を伝えていく機会も検討していきたい。新規のボランティア希望者に対しては施設見学の受け入れ、会議での児童とのマッチングの検討など調整を図っていく。ボランティア保険にも加入し、行事のお手伝いにも安心して活動できるようにしていく。

②進路支援（進学・就労）に関すること。

日常的にどの職員でも進学に際しての児童の相談に対応できるよう、新任職員に地域の高校の特色、傾向などの説明を行う。自立を控えた高校生には社会体験ができるインターンシップやアルバイトを奨励し、自立資金の取得を呼び掛ける。ハローワークの利用や保険、年金などについても理解が深まる支援を心がけていく。高校卒業後に進学を考える児童には、意欲の度合いや保護者などからの経済的支援の有無を確信した上で各種奨学金の説明を行う。中学3年生以上の児童を対象に高齢児合宿を開催し、退所者から実際に生活・就労体験などを聞くことで退所後の生活シミュレーションに繋げ自立への意識を高める。

③学校、就職先、関係機関との連携に関すること。

同地域である伊豆長岡学園との協働をすすめ、フェアスタート仲介による同友会との企業説明会を行う。企業の方々と直接触れ合える機会でもあるため、中学1年生からの参加を促し、長期休みのインターンシップを活発に行えるよう連携を深めていく。小学生からもお仕事体験ができるような機会の提供を進めていく。進路選択を控えた高校3年生が通う学校とは連絡を密にし、早期の進路決定に繋がるよう面談などを行いながら情報の収集や共有に努める。また日本学生支援機構の奨学金制度変更における予約も進学希望者には進めていく。進学先となる学校へも児童の状況や窓口となる機関の確認も事前に行っていく。就労支援に携わるNPO法人や同地域の伊豆長岡学園とも連携し、近隣での職業体験や退所後の就労支援も視野に地域の企業とのネットワーク作りを進めていく。小・中学校には定期的な懇談会の開催をお願いしていく。中学校は例年恒例とな

令和2年度（2020年度）事業計画

ってきているがGH児童が通う中学や小学校は認知が低いところもあるため、協働できるような情報交換会の開催を検討する。

④社会資源の活用・連携に関すること（情報収集・施設内での情報共有等）

自立支援コーディネーターの全体会・学習会や自立支援コーディネーター・ブロック会議などに参加し、会議の内容や支援団体、他施設の職員を通じて情報を収集する。奨学金などの情報は見やすく分かりやすい資料整理に努め広く活用できるようにする。知り得た情報は報告書を作成し会議において周知・活用できるようにする。

（4）高校中退者など個別対応が必要な児童に対する生活支援、再進学又は就労支援等

高校中退や不登校にならないよう施設全体での意識があるため、引き続き個別の対応を進め通学意識・意欲を高めるように支援をする。中退者が出る場合には児童との対話、希望を尊重しながら再チャレンジ校や就労支援に努めていく。特別支援学校通学児童もいなくなるが、児童の特性に合わせた支援を医療機関や心理士と連携をしながら進めていく。

（5）施設退所者に対する継続的な相談援助

①施設退所者の状況把握や援助記録に関すること。

社会的自立に向けた支援計画を策定し、適宜評価しながら必要な支援が行えているか確認を行う。最終担当職員、家庭支援専門相談員とも連携し適切な支援を行っていく。記録管理システムの掲示板を活用し、退所者の状況については他の職員もタイムラグ無しで把握できるようにする。併せて書面を用意し月2回の会議などの場で現況報告を行う。それにより退所者と接点がない新任職員などもある程度の概要を把握し、相談窓口へ繋げることができるようにする。

②退所者が相談しやすい環境や体制づくりに関すること。

原則、最終担当職員が退所後の支援の担当と位置づけ、関わりを継続的に行えるようサポートを行っていく。また、該当職員が退職してしまっても必要な支援が途切れないよう職員体制にも配慮する。児童の意向も確認しつつ、退所後の支援に関して説明を行い、遠慮なくいつでも相談ができることを伝える。退所後の住まいや進学先・就労先を訪問し現況を確認し支援の必要性を確認していく。電話連絡だけでなくメールやSNSなど相談しやすい方法での支援の受け付けも行う。家庭状況など考慮が必要な児童に関しては、入所状況も踏まえ宿泊を伴う帰省の受け入れが可能か随時検討を行う。

③退所者同士の自助グループ活動など援助に関すること（退所者が施設に集まる機会の確保等）

GWやお盆、年末年始など、施設に来やすい時期に電話連絡などで来園を促す。また、成人式に合わせ対象となる退所者を受け入れお祝いをする。在園児童に向けた高齢児合宿ではあるが、退所者が集まる機会の確保とも位置付け開催していく。退所者独自のネットワークなども把握し、施設主催の同窓会も検討していきたい。

（6）その他、施設独自の取組

養育の質を高めるために、外部との連携を強化していく。中高生の自立を支援するために施設機能強化事業の特別事業である「児童養護施設分園型自活訓練事業」を施行できるよう関係各所との連携をしていく。現在、高齢児合宿を一般事業の社会復帰促進事業で賄っているが、社会体験・就労体験事業で東京でのインターンシップ利用時の交通費としての利用検討を進めていく。

インターンシップを行った際の事前・事後報告のやりかたを検討し、より良い就労体験ができるよう整備をしていく。今年で10年目の開催となる高齢児合宿はテーマを掲げ、合宿の目的を明確にしながら進めていく。また夏休み中の開催を目指していく。

同友会との連携では例会にコーディネーターが出席させていただき、さらなる連携を深めていきたい。

IX. 食生活支援事業計画

課題

子どもたちは親や家族と離れて不安な中で生活をしています。松風荘で安心して、豊かな生活ができるよう、子どもたちの声を良く聴き、安全で、おいしい食事を作ります。また、成長期にある子どもたちの発達を保障するために栄養バランスの取れた食事を提供します。

また、いずれ卒園していく子どもたちが自分で食事作りができ、楽しく、気遣いのできる食卓を囲めるように援助し、食育と危機管理について検討します。

今年度重点テーマ…食への感謝、関心

食への感謝、関心を持つことで食事への思いや理解を深める心を育てます。子どもにとって食事をする環境はとても大切で、一緒に食べる周り大人の雰囲気づくりにより食事の時間が楽しいものになります。

共食の意識を持つことで健康的な食事のあり方や作法を身につけ食育の一環とし、食生活リズムを作ることで成長と発達を促します。

今の食べ方、食べたものが10年後の子どもたちの健康を左右します。

これまでの取り組みの結果に基づき、肥満、やせすぎ、低体位の子どもへの個別支援、高校生の食生活自立への準備とグループホームの支援をします。

子どもたちが「食べる力」は周りの大人の「食べる力＝食事、健康への関心」を反映している。子どもたちが十分な力を身につけることができるよう私たち職員も力を磨きます。

平成17年食育基本法の制定

1、子どもの健康と食生活

(1) 毎月の体重、隔月の身長測定

子どもの発育、発達状況、栄養状況、栄養状態、生活状況等について把握し、評価を行い職員会議で共有する

低体位児童の発達保障

中高生の発達支援

肥満の改善 本人の自覚と努力と援助（今まで、今、これから）

偏食（大嫌いな食べ物を減らす、一口食べるところから始める）

個人別健康簿の整理（成長曲線）

(2) 治療食

医師の指示、本人の食欲を大切にします

(3) アレルギー

医師に診断を求め、その指示に従い個別対応をします。

(4) 外食

食事を通して豊かな生活を築きます

5月 子どもの日（寿司の出前） 7/12月衣料購入時 8月 キャンプ・民宿

令和2年度（2020年度）事業計画
1月 民宿、合宿 3月 卒業外食

（5）食事時間

朝食 6時30分～7時30分 休日7時30分
昼食 12時（11時45分） 15分間は少なくとも着席
夕食 18時30分
みんなと食べる大切さ
登校時間、部活動、アルバイト等にあわせた食事時間の配慮

（6）嗜好調査

献立の希望調べ 献立検討（希望、検討） グループホーム訪問時の聞き取り

（7）誕生日会

誕生者の希望をかなえます。

（8）行事食

季節の行事食・食材を大切にします。

（9）食品選び

食品は新鮮で添加物の少ないもの、なるべく国産のものを選びます。

（10）減塩

子どもの時からの食塩摂取量が生活習慣病につながるので、減塩に努めます。

2、子どもの役割と食事作り

役割

布巾洗い 幼児、小学生低学年
片付け当番 中高生（土日祝）

食事作り、調理実習とお手伝い

お手伝いを盛んに、楽しくなる食事作りを支援します。
自発的で計画的な食事作りを自分と他人のためにできるよう支援します。
卒園する児童への自立に向けた調理計画を支援します。

行事食

4月 入学祝い（赤飯、御頭付き鯛塩焼き） 7月 七夕（ちらし寿司）
1月 正月（御節、雑煮）/七草/小豆粥/成人の日（赤飯） 2月 節分（恵方巻）
3月 ひな祭り（ちらし寿司）

おやつ作り

4月桜餅 5月柏餅 9月おはぎ 12月餅つき 3月ぼたもち

令和2年度（2020年度）事業計画

3、環境整備

衛生管理

ねずみ（6回/年）、ゴキブリ駆除（2回/年）

食器乾燥機、次亜塩素酸消毒、熱湯消毒

検便（全職員1回/月、児童4回/年、ノロウイルス検査 本園食生活職員11～3月）

中心温度（85℃以上/1分以上）表面温度（10℃以下）、保存食（2週間保管）

掃除

・ 毎月集中清掃の実施

（換気扇、冷蔵庫、冷凍庫、食品庫、食品棚、調理器具棚、調理台、ガス台、シンク下、フィルター等）

検収

表面温度測定、賞味期限確認、適温保管、産地証明

物品購入

器具什器 安全で使いやすい食器

個人別（年齢別茶碗、はし、湯のみ、マグカップ）

ゴミ分別、処理

水切りの徹底、ゴミにしない工夫、分別の徹底

4、研修

（県）給食協会、東社協現任訓練、施設見学、給食研究会
栄養士会、保健所研修会、園内研修

5、職員体制

常勤栄養士1人、常勤調理師1人、常勤調理員1人、
調理員パート1人、グループホーム 3時間調理員3人枠

栄養基準量、食品群別食料構成算定表
別紙

地域交流

バザー、クリスマス会（手作りお菓子）

飲食物費収入

収入予算（都）30,200円/月 1,026円/日

支出予算

毎月業者 31,000円×（12+3）＝ 465,000円/月

1,000円（160+350+140+350）/日

全体行事費 250,000円/年

9、記録簿

調理日誌、会議録、検食簿、点検簿、食品衛生管理簿

10、会議、打ち合わせ

職員会議（1回/月）、食生活業務会議（1回/月）、調理員合同食生活会議（2回/年）
 毎日の打ち合わせ 9時30分～

11、災害時の食事と危機管理（食中毒）について検討する

4月 非常食の確認

6月 備蓄食を使用した調理実習（本園、グループホーム調理員合同）

12月 もちつき

備蓄食7日分 水3リットル×7日分=21ℓ/人 21ℓ×（30+31）=1281ℓ

※ 併せて、災害時のデイスポ容器の棚卸、在庫確認等行う

12、子どもの発育、発達状況、栄養状態、生活状況などについて把握し、食事計画を立てる。

栄養アセスメント、栄養ケアプランの作成

※ 厚生労働省雇用均等・児童家庭局長平成27年3月31日

「児童福祉施設における食事の提供に関する援助および指導について」

（ケアプラン表、自立支援計画作成に参加）

13、食育（買い物、食事作り、食事、片づけ）

卒園児童への調理実習

中学、高校生の食育が課題

14、グループホーム支援

毎月グループホームを訪問し、要望を聞き、成長発達

2020年 食事摂取基準												2020/4/1
	エネルギー	たんぱく質	脂質	Ca	Fe	レチノール	VB1	VB2	VC	食物繊維	食塩	
最大値 17歳男	3819	83.0	75.6	800	9.5	900	1.5	1.7	100	19	8	
最小値 6歳女	1135	23.3	25.2	550	6.5	400	0.8	0.9	55	10	5.5	
基準値	2400	60	25%	700	*14	650	1.2	1.4	80	13	6.5	
									平均年齢	11.8	最大17歳	最小5歳
									* Feに関しては女兒の最大値を設定			
2020年 食料構成												
	魚肉類	乳類	卵類	野菜類	海草	芋類	果実	米パン麺	豆類	油		
基準値	170	400	50	300	5	130	100	330	50	15		

X. 心理支援事業計画

1. 個別心理療法の実施

日常生活での支援と並行して、より専門的な児童の心理ケアのために個別の心理療法を行う。プレイセラピーとカウンセリングを手法とし、主にトラウマの治療、発達の促進、不適応状態の緩和等を目的とする。

対象：被虐児童・生活適応に課題を抱える児童等（実施場所：本園 心理部屋）

2. 生活場面における心理ケア及び治療的養育環境作り

児童の生活場面である学習、食事、清掃、余暇活動に参加し、発達や生活適応に課題を抱える児童に対し、心理的側面に配慮した関わりや支援を行う。また、生活場面において児童から訴えがあった場合等に、話を聞き個別の関わりを通じて治療的関わりを行う。

・児童への生活場面面接

児童の状況に応じて、居室及び生活空間において面接を行う。

・生活場面における児童の状況観察

生活場面での児童の生活状況や対人関係を観察し、状況に応じて生活場面面接に繋げ、助言等の心理治療的・教育的介入を行う。児童間や児童職員間の状況をアセスメントし、生活場面での支援に生かす。

3. コンサルテーションの実施

個別心理療法、生活場面面接での見立て及び生活場面での観察等の気づき職員間で共有し、支援に役立てるため会議に参加し、コンサルテーションを行う。

4. 心理教育の実施

高齢児合宿にて、昨年度に実施したストレスマネジメントを発展させた心理教育プログラムを実施し、対象児童が抱きやすい心理的な課題について、正しい知識や情報を心理面への配慮を十分にしながら伝えていく。

5. 医師との連携

投薬治療中の児童について定期的に児童の様子を伝え、医師との連携を図る。また、投薬治療を行っていない児童に関しても気になる様子等を伝え必要に応じて医療機関受診に繋げる。

6. 学校との連携

授業参観や保護者向けの学校行事に参加し、児童の学校生活や学習、友人関係について学校教員と情報交換を行うことで児童の学校不適応感への予防的介入を行う。また、学校不適応児童への具体的なサポートや治療的養育的環境作りに繋げる。スクールカウンセラーとも連携し、児童の様子を共有し、専門的な心理アセスメントや心理ケアに繋げる。

7. 児童相談所との連携

児童相談所の福祉司、心理司等との児童の見立てや生活場面での様子を報告し、共有する。また、精神投与中の児童に関しては、定期的に様子報告書を提出し、状況を報告する。

8. 心理カンファレンスの実施

外部講師を招いての心理カンファレンスを実施し、対象児童について多角的な視点で見立て、支援方法を検討していく。

XI. 委員会活動事業計画

防災安全委員会

1. 方針

（防災部門）

- ・自然災害や火災、津波等による被害から松風荘の児童、職員の安全を確保出来るよう考える。
- ・災害時には被害を最小限に抑えられるよう人命を第一優先とし、さまざまな対策を行い災害に備える。また、地域住民と協同し復旧・復興対策を行っていく。

（安全対策部門）

- ・児童間の関係性や施設内の死角となる場所や時間帯を把握し、職員間で情報を共有することで、事故を未然に防ぐ取り組みを行う。
- ・過去の暴力的事故やヒヤリハットを検証し、同様の事象が起こらないように努める。

2. 取り組み内容

（防災部門）

- ・緊急連絡網の作成、通報訓練の実施
- ・家具等の転倒防止対策、防災バッグ、応急医療セットの内容確認
- ・住所や氏名、連絡先、血液型、服薬の有無など個人の情報が分かる物を作成
- ・自衛消防組織編成表に基づく訓練の計画と実施
- ・本園、各分園での避難訓練の計画と実施
- ・「松風荘・防災の日」として備品や施設内で危険個所がないか確認及び炊き出し訓練・総合防災訓練実施
- ・年1回燃料交換
- ・事業継続計画（BCP）の作成

（安全対策部門）

- ・児童間の関係を把握するため、聞き取りを行ない、ジェノグラムを作成する。
- ・昨年度の事故報告やヒヤリハットを検証し、今後の事故を未然に防ぐ。

3. 年間計画

- 4月 緊急連絡網の作成、防災バッグの内容確認
- 5月 職員会議で通報訓練を行う
緊急連絡網を実施
「松風荘・防災の日」として炊き出し訓練・総合防災訓練実施（全児童を対象）
- 6月 ジェノグラム作成の為、児童への聞き取り実施
児童への聞き取りに基づくジェノグラム作成 ⇒ 養護会議で報告
- 11月 職員会議前に自衛消防組織編成表に基づく訓練の実施と検証（地震）
- 2月 暴力的事故報告やヒヤリハットの検証 ⇒ 養護会議で報告
総括・次年度に向けての課題検討

マニュアル委員会

1. 目的

マニュアルを質の向上、支援の統一を目的とし、現状に合わせたマニュアルの策定、確認、訂正を行う。また全体的に周知され使いやすいマニュアル作りを心掛ける。

2. 活動方針

現行のマニュアルを時代に対応した使いやすいマニュアルにするため、マニュアルの読み合わせを実施し、随時内容の精査と改訂を行う。

昨年度危機管理・感染症のマニュアルの定着化を図るために熱中症対策・対応を職員から子どもへ説明をする周知活動を行ったので、今年度はアウトプットとして会議内で学習会を2回（熱中症・インフルエンザ）実施する。

保護者支援のマニュアルの作成に着手し、併せて「松風荘ってどんなところ？」の定着化を図るため、使用方法の確認を行う。

業務の見直しアンケートを実施し、職員の困り感やニーズの把握を行う。職員の支援スキル向上をはかるという点に着目したうえで現行のマニュアルの改訂、新設を行う。

重点課題

1. 感染症・危機管理マニュアルの再確認および感染症に関する学習会の実施
2. 子ども向けマニュアルの施行・活用
3. 職員の業務見直しアンケート全体実施
4. FSW と連携し、保護者支援のマニュアルを作成

3. 委員会・マニュアル周知活動内容予定

委員会	月	内容
第1回	5月	方針検討・児童用マニュアルの検討・学習会検討
第2回	7月	危機管理・感染症マニュアル改定
第3回	10月	保護者支援マニュアル作成・学習会検討
第4回	1月	総括検討

4. 周知活動予定

対象者	月	活動内容
新任	4月	新任研修にて業務手引き・支援マニュアル読み合わせ
全体	5月職員会議	学習会（熱中症対策・対応ロールプレイ） 感染症・危機管理マニュアルの再確認
全体	9月職員会議	業務見直しアンケート実施
全体	11月職員会議	業務見直しアンケート報告 学習会（インフルエンザ対策・対応ロールプレイ）
直接処遇	12月職員会議	支援・業務マニュアルの読み合わせ 「松風荘ってどんなところ？」の使用法確認

性教育委員会

1. 方針

- ・本園・分園共に男女混合で生活している状況がある為、性的問題のリスクは変わらない状況にある。児童間の関係性や特性を捉え、小集団の中で性教育を高めていく。
- ・マニュアルを活用し、職員の性に対する知識の向上を図る。

2. 取り組み内容

- ・学校の性教育プログラムを周知し、本園、各ホームで性教育個別計画を確認して性教育を実施する事を目標とする。
- ・高齢児合宿での性教育実施計画を立てる。
- ・目的に沿った内容を検討し、園内研修内容検討の実施をする。
- ・性教育マニュアルを職員に浸透させ、知識の向上を図る。

3. 年間計画

- 4月 年間計画検討・役割分担
- 6月 性教育マニュアル活用方法検討・園内研修内容検討
- 8月 高齢児合宿での性教育実践計画
- 11月 性教育園内研修実施
- 2月 総括・来年度の性教育内容検討